

令和4年3月

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面にて委員への資料送付と意見回収を行った。

1 令和3年度学校運営の報告（校長） ※別紙資料参照

2 各委員からの意見

【委員A】

- ・コロナ禍の中においても、地域や保護者の思いを大切にしながら、校長と職員の思いを具現化した教育がなされている。
- ・地域と共にある学校をめざす姿が、学校便り等から具体的に知ることができた。金成ふるさと本部の設置はとても素晴らしい。学校と地域の双方向のより深い係わりを今後も継続してほしい。
- ・今年度の重点的な取組について
  - ①コロナ禍で行事や部活動、学習手段が制限される中、自己肯定感を高く保つことができたことは評価できる。調査等により、昨年度自己肯定感が特に低かった児童生徒を把握し、対策を立て、今年度の変容を検証することも必要である。
  - ②家庭学習の時間が増加したことから児童生徒の意識が少しずつ変化してきていることを感じた。今後も継続した取組を期待する。
  - ③「自分の考えをはっきり伝える」という重点目標については、「はっきり」の定義がされておらず児童・生徒も答えにくかったのではないかと考える。「あてはまらない」と回答した7パーセントの児童生徒を把握し、繰り返し励ましアドバイスしていくことも必要である。
- ・毎回郵送いただいている「学校便り」は読みやすく、学校でどんな活動をしているのかがよく分かった。

【委員B】

- ・コロナ対応について、児童・生徒・学校がマスク、手洗いなどによく取り組んでいる。
- ・体力・運動能力の低下が気になっている。コロナ禍により在宅機会が増え、生徒数の減少により運動部が少なくなっていることも理解できるが、いずれにしても体力向上の取組を今後もお願いしたい。

【委員C】

- ・コロナ禍とはいえ2回という学校運営協議会の開催回数は少ないと感じる。また、内容が学校評議員会と変わらないので、学校運営協議会の在り方について検討した方がよい。
- ・アンケート結果について、A、Bの回答が大半を占めているが昨年度と比較すると一定数C、Dの回答があるので、そこへの対応をしっかりと改善してほしい。
- ・アンケートでは大多数が「挨拶している」と回答しているが、私の感覚とはかなりの相違がある。それは先生方にも感じる。来客対応しっかりお願いしたい。

【委員D】

- ・タブレットによる学習は大変効果的である。家庭学習においても、活用を継続してほしい。ただ、タブレット学習ができなかった生徒への対応やインターネット接続などのトラブルについて懸念している。
- ・義務教育学校の特徴を活かし、他校にない前期・後期課程のつながりを強化してほしい。
- ・いじめへの早期対応ができています。長期になれば不登校に発展しかねないため、今後も関係職員で連携した対応をしてほしい。不登校生徒は減少しているのでよい結果となっている。
- ・不審者対応については、今後も警察署と連携し、生徒の安全・安心な学校生活を確保してほしい。
- ・コロナ禍の中、学校訪問ができないので、学校便りが情報源となっている。より新しい学校の情報を知ることができるため、今後も継続してほしい。
- ・この第2回運営協議会の意見をまとめて報告していただきたい。

令和3年度学校運営の報告

1 学校運営全体について

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら制限の多い学校運営となりましたが、PTAや地域の皆様のご支援とご協力をいただきながら、児童生徒が充実感を味わえるよう、各種教育活動の推進に努めて参りました。

(1) ICT活用の推進

GIGAスクール構想の実現に向け、全学年の児童生徒にタブレット端末が配布されたことを受け、本校では、日々の家庭学習への活用とともに、臨時休業等への備えとして毎日の持ち帰りを実施しています。また、校内に「タブレット活用推進実行委員会」を設置し、使用上のルール作り、事故を未然に防ぐための情報モラルの啓発、AIドリルの活用やプログラミング教育等の職員の研修、オンライン学習マニュアルの作成等、児童生徒への効果的な活用の指導と職員の指導力を高めるための取組や準備を同時進行で行っています。



(2) 在校時間の縮減

働き方改革の一つとして、職員から提案された業務改善策を進めました。アンケート調査等のデジタル化、在校時間の見える化等の取組により、1月末現在、正規勤務時間外の在校時間平均は、前期課程 27.3 時間、後期課程 36.6 時間で、昨年度と比べ5%弱の縮減が図られました。また、勤務時間外の在校時間が80時間以上になると健康被害のリスクが高くなると言われていますが、該当する職員はおりませんでした。

2 学習指導について

(1) 児童生徒の実態を受けた校内研究

令和2年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本校では自己肯定感の低い児童生徒が多いという実態が分かりました。そこで、今年度は児童生徒の自己肯定感を高め、課題に意欲的に取り組む児童生徒の育成に向けて校内研究に取り組みました。

対話的な学習活動を通して、自分の考えを広げ、深めるとともに、それを児童生徒が実感できる指導の在り方を明らかにするため、前後期課程両方の教員が教科ごとのグループを作って研究に取り組みました。授業の中で、ペアやグループで友達と一緒に課題解決に取り組む活動を大切にしたことにより、挑戦しようという気持ちが芽生え、自然に話し合い、解決に近づこうとする児童生徒の様子がみられました。

(2) 令和3年度の全国学力・学習状況調査を受けた学力向上に向けての取組

- ① 話し合い活動や自分の考えを発表する活動には意欲的に取り組むようになってきましたが、学力調査の結果から国語的な表現、数学的な表現を用いて、相手に分かりやすく説明したり、文章に表したりする力がまだ身に付いておらず、記述式の問題の無答率が高いことが課題となっています。
- ② テレビゲームをしている時間が長い児童生徒が多く、学習や体調に影響していると思われます。下校後の時間の使い方を考えさせ、長時間のゲームが脳に与える影響やゲーム障害などの知識を、データを基に提示し、考えさせる必要があると考えました。
- ③ 学力調査から、既習事項を活用して活用問題や応用問題を解く力が不足していることがうかがえます。授業の終末に適用問題や小テストを行うこと、また、問題のレベルを選択し、自分の力にあった問題に取り組み、どの児童生徒も学力向上を図れるようにすることが必要だと考えました。

(3) 義務教育学校としての取組

義務教育学校のメリットを生かした取組として、後期課程教員による前期課程児童への教科指導を行いました。後期課程教員の指導により、前期課程児童に学習規律が定着するとともに、後期課程教員にも指導上の気付きがあり、児童の中一ギャップ解消につながる成果がみられました。特に、音楽科は授業時数が少ないため、前後期共通の学習スタイルの定着により、後期課程進級後もスムーズに授業を進められることが期待できます。



### 3 生徒指導について

#### (1) 不登校支援

前期課程で完全に登校していない児童が1名います。後期課程では、不登校だった生徒が教室に復帰、又は別室登校、放課後登校しており、完全に登校していない生徒はおりません。

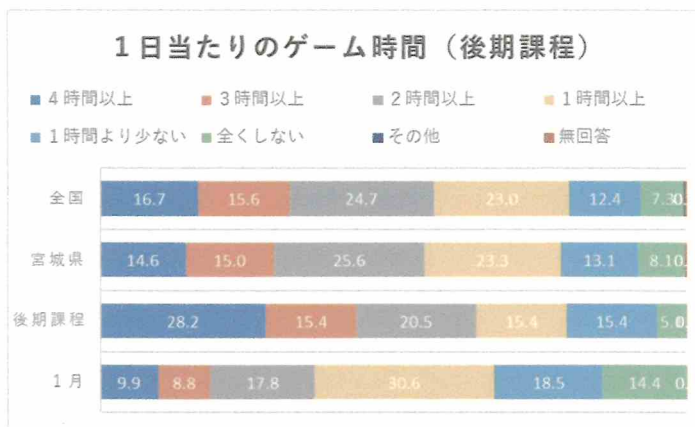
#### (2) いじめ問題対策

定期の学校生活アンケートや、保護者からの連絡等によりいじめを把握し、「いじめ問題対策委員会」による組織的な対応を行っております。最終的には、加害・被害児童生徒の保護者と話し合いを行い、人間関係作りの未熟な部分について大人が見守ることに賛同いただき、いじめが確実に終結するまで両方の保護者に経過報告をしながら指導を継続しています。

#### (3) ゲーム依存症の解消

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果より、前後期ともゲームの時間が多いことが明らかとなりました。ゲームは脳への影響による依存傾向が強いため、教師側からの働き掛けだけではなく、児童生徒の主体的な取組が必要と考え、児童生徒会の取組として啓発を図りました。また、PTAを通して保護者への呼び掛けを行い、保護者にも主体的に関わっていただくようお願いしました。

その取組の一つとして、児童生徒が1週間の生活を記録するアンケートを実施しました。そして、児童生徒会がその結果をもとに自ら話し合って改善に向けた約束を作り、リーフレット（別紙）を作成・配布しました。そうした活動の成果により、ゲームの時間は減ってきましたが、更に定着を図ってまいります。



### 4 健康・安全について

#### (1) 健康に関する状況

前期課程においては、肥満の出現率が高めであることと、疾病については、アトピー性皮膚炎等、皮膚に関するものが多くなっています。

後期課程では、男子で肥満の出現率が高めで、視力低下者が昨年度より4ポイント増加しています。ゲームやスマホの時間が一因となっている可能性もあるため注意が必要と考えています。

今年度、栗原市が実施した「食に関するアンケート」（前期課程1年、5年対象）の結果、前期課程では、「朝食は毎日食べますか」の問いに92.7%が「毎日食べる」7.3%が「ほぼ食べる（週4回）」と回答し、「ほぼ食べない」「食べない」は0%でした。後期課程（8年生対象）では、「毎日食べる」67.5%、「ほぼ食べる（週4回）」22.5%で、90%は食べていると回答していますが、5%の生徒は「ほとんど食べない（週1回）」と回答（未回答5%）しており、改善が求められます。

#### (2) 体力・運動能力

スポーツテストの結果、前期課程では、総合得点が、男子は5つの学年、女子は4つの学年で全国平均を下回っています。体力向上を目指した取組として「フレンドリーマラソン」や市の陸上大会に向けた練習、そして、外遊びの励行に取り組んでいます。

市陸上大会では多くの児童が上位入賞し、3名が県大会出場を果たし、5年生女子児童は100mで全国少年少女交流会に出場しました。

後期課程では、男女ともすべての学年で総合得点が全国平均を下回っています。そこで、自身の体力テストの結果を基に、自主的に運動に取り組めるようなシートを配布し意欲付けを図っています。また、コロナによる休業や部活動中止に備え、「家でできるトレーニングメニュー」を部活動ごとに配布し取り組ませています。

今年度、市中総体では、バスケットボール女子が優勝したほか、団体種目4種目が3位となるなど活躍しました。市新人大会でも、バスケットボール女子の優勝をはじめ、団体種目3種目が準優勝を果たすなど活躍が光りました。さらに、市駅伝競走大会では男子が2位、女子が3位となる頑張りを見せました。



### (3) 引き渡し訓練

災害時を想定した訓練だけでなく、新型コロナウイルスに関わる引き渡しを実際に行いました。その経験を生かし、天候や学年による引き渡し時間の時差、職員の連絡体制の見直しを図ったほか、引き渡しカードの登録者（引き取り者）を事前に学校に提出していただくことで、責任の所在を明確にしました。

### (4) 不審者対応訓練

実効性のある訓練を目指し、警察署の協力をいただき職員の実技訓練と講話による研修を実施しました。また、登米市で起きた事件の教訓を生かし、不審者が現れたときの隠語をシンプルで分かりやすくしました。また、これまで体育館へ避難するケースしか想定していませんでしたが、複数のケースを想定した避難計画に変更しました。

現在、児童生徒の活動場所を、教職員が把握できる場所に限定するとともに、玄関や昇降口は施錠し、来客等についてはインターホンで対応しています。

### (5) 新型コロナウイルス感染・拡大防止対策

児童生徒及び保護者に対し「学校における新しい生活様式」の啓発と実践を進めました。また、オミクロン株の拡大に伴い登校時の水際対策を徹底するため、一人一人の検温とチェックシートの確認を教職員が輪番で行いました。本校の特色でもある縦割り活動についても制限しながら柔軟に行いました。さらに、陽性者、濃厚接触者の発生に備え、「新型コロナウイルス感染症等対策委員会（本部）規程（案）」をまとめ、スピード感のある対応ができるよう今年度より運用しております。

## 5 今年度の重点的な取組の成果について

今年度は、次の3点に重点を置いて教育活動に取り組むことを確認しました。一昨年度の全国学力学習状況調査（昨年度未実施）との比較により説明します。

### (1) 「自己肯定感を向上させる」

質問5・6「自分には良いところがあると思いますか」の肯定的評価

- ・令和元年度 後期課程9年生 61.9%（県74.0%，全国74.1%）
- ・令和3年度 後期課程9年生 79.5%（県75.7%，全国76.2%）
- ・12月の全校児童生徒のアンケートでは77%となっています。

### (2) 「家庭学習の時間を増やす」（2時間以上の割合を増やす）

質問18「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の肯定的評価

- ・令和元年度 後期課程9年生 7.2%（県30.6%，全国35.5%）
- ・令和3年度 後期課程9年生 38.5%（県35.7%，全国41.8%）
- ・後期課程全体の生徒1月の実時数の調査記録で43.6%。特に3時間以上の生徒は、今年度全国学習状況調査で0%でしたが、1月の調査では20.5%と大きく増加しました。

### (3) 「自分の考えをはっきり伝える」

質問32「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定的評価

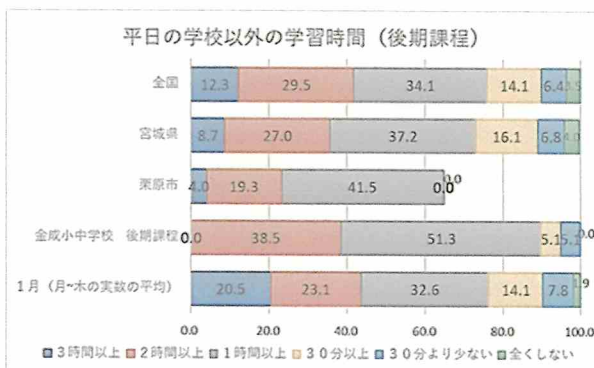
- ・令和元年度 後期課程9年生 57.2%（県76.0%，全国72.8%）
- ・令和3年度 後期課程9年生 87.2%（県79.2%，全国77.8%）

質問14「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の肯定的評価

- ・令和3年度 後期課程9年生 77.0%（県76.6%，全国75.2%）
- ・12月の前後期児童生徒全体のアンケートでは77%で、この点については保護者のアンケートも76%でした。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果、後期課程では9年生をはじめ全体的に成果がみられ、前期課程にでも自己肯定感に対する肯定的評価が県・全国の平均を概ね上回るなど、良い傾向が見られます。これまでの指導の積み重ねによる成果だと考えます。

家庭学習の時間については、2時間以上の割合は多くなったものの、3時間以上取り組んでいる生徒は県・全国と比較して少ない状況です。



## 6 施設設備について

- ・令和3年10月26日 南側校庭雲梯下へ山砂敷砂  
対象年齢12歳までとなっていますが、使用するのが主に1～3年生のため、落下の際の高低差を少なくするため土盛りをしました。
- ・令和3年12月3日 校舎南側雨樋清掃  
校舎建設後初めて清掃作業を行いました。
- ・令和4年1月31日 ボイラー修繕
- ・令和4年2月16日 サッカーゴール撤去処分
- ・令和4年2月22日 心技館・体育館裏 支障木伐採
- ・令和4年3月(予定) サーマルカメラ購入(P T A会費より支出)  
昨年度に続き、朝の検温等で使用するサーマルカメラを購入予定。

## 7 情報発信(地域と共にある学校)について

### (1) 広報活動

#### ① 学校だより

今年度は1月末時点で13号まで発行しています。学校だよりは学区内の各家庭に回覧し学校の様子を紹介しています。また、第1回目の学校運営協議会でご意見をいただき、委員の皆様にも配布しご覧いただいています。

#### ② ホームページ

学校だより「高見山」を毎月ホームページに掲載しています。毎回、「金成っ子の活躍」のコーナーで文化、スポーツ等の受賞の記録を紹介していますが、ホームページ上では、個人情報を守る観点から、記録は姓のみの記載とし名前は省略しています

#### ③ 金成ふるさと本部の設置

副校長と地域連携担当とで、これまで学校に関係している地域の個人及び団体を訪問し、趣旨を説明し同意を得ることができました。現協働教育全体計画を、次年度から地域学校協働活動推進全体計画として作成しています。今年度は、児童生徒会による「アルカス運動」で地域の清掃活動を行うなど、コロナの影響に関わらずに実施できる取組を行っています。今後も、地域の方々から学校への一方的な学校支援だけではなく、双方向の関わりにより児童生徒の地域貢献にも力を入れてまいります。

### (2) 保護者アンケート

保護者のアンケートにつきましても貴重なご意見をいただいております。

